

サヘルの人々が世界の反帝国主義運動を鼓舞

INTERNATIONALIST 360° 2024 年 11 月 24 日

People of Sahel Inspire Global Movement Against Imperialism - INTERNATIONALIST 360°

11 月 19 日から 21 日にかけて、数百人がニアメに集まり、「サヘルの人々との連帯」会議を開催し、フランスの植民地主義に対する闘いの最前線に立ってきた人々から直接話を聞いた。



「パレスチナを解放せよ」と「帝国主義を打倒せよ」の叫び声がニジェールの首都

ニアメの街頭に響き渡り、世界中の反帝国主義者とともにイスラエルの大量虐殺に反対して一緒に行進しクライマックスを迎えた。

3日間のサヘル人民連帯会議は、パン・アフリカニズム・トゥデイ事務局と西アフリカ人民機構が主催した。ニジェール、マリ、ブルキナファソは、過去数年間、帝国主義に対する闘争の最前線に立ってきた。この地域での一連の軍事クーデターの後、新政府はフランス軍とこの地域の経済的支配に対して決定的な立場をとった。

これらの政府は共に「サヘル諸国同盟」を結成し、制裁とテロの影響を打ち負かすために協力している。これらの措置は、フランス帝国主義に対する闘争を第二の独立のための闘争と見なす地域の人民組織によって強く支持されてきた。

その精神は、会議の最後に採択されたニアメ宣言に反映されている。代表団は、サヘル諸国同盟の国民と指導者への断固たる支持を表明した。宣言は、「最近のクーデターから立ち上がった政府が、自国の領土と天然資源に対する政治的・経済的主権を取り戻すための愛国的な措置を採用した」ことを称賛した。これらの措置には、新植民地主義協定の終了、フランス、アメリカその他の外国軍の撤退要求、主権開発のための野心的な計画の実施が含まれる。

「これらの政府は現在、革命的行動を推進し、結集する市民から広範な支持を得て

いる。この団結は、民主主義と愛国的な理想を達成するために重要であり、他のアフリカ諸国にとって野心的な開発モデルである」とのべ、「サヘル地域の民衆と革命勢力が完全かつ全面的な主権を求める闘争」に連帯することを宣言した。

代表者たちは最終日の最後のパネルディスカッションで、大陸の統一への道という重要な問題に取り組んだ。ガーナ社会主義運動のクウェシ・プラット・ジュニア書記長は、汎アフリカ主義者の闘争の歴史を想起し、団結への唯一の道は抵抗であると述べた。彼は、アフリカ諸国は、クーデターで人々の指導者を退陣させ、殺害した植民地主義と新植民地主義の権力から民主主義の教訓を受けることを拒否したと述べた。「我々の唯一の選択肢は、資本主義と帝国主義の犠牲者である他の国々と協力して自立した発展することだ」と彼は付け加えた。

ニジェールの組織 M62 のファルマタ・タヤは、ニジェールでの闘争は若者と女性によって先導されていると述べた。彼女は、ニジェールの主権を弱体化させるフランス軍の役割と、西側諸国の分裂的な政策を想起し、「人々は団結しています...私たちが望むのは、人間として扱われることだけです」と述べた。

西アフリカ人民機構のクエッシ・ギルバートは、近年の統一に向けた主要なプロセスと、それを転覆させようとする西側諸国の試みの概要を説明し、「アフリカのすべ

ての国が直面する政治的、経済的、文化的帝国主義」とたたかうよう呼びかけた。

彼は、植民地権力によって課せられた人工的な国境に逆らう必要性を強調した。

この会議は、大陸中の多くの組織によって歓迎された。タンザニアの農民組織

MVIWATA は、サヘル諸国がたどった革命の道に誇りを表明し、第一に植民地の臍

帯から切り離すための大胆な声明と行動を行い、第二に革命を防衛するために三国

家の同盟を築くことを表明。「私たちは特に、これらのアフリカ諸国の利益、革命、

主権を守る責任を委譲された人々の手に革命を委ねる行動に勇気づけられていま

す」と述べた。

【ニアメ宣言】 サヘルの人々との連帯、反帝国主義の 統一、平和、民族間の友情のために

南北アメリカ、アジア、アフリカなど、世界のさまざまな地域から参加者が、サヘ

ルの人々との連帯会議に出席しました。このイベントは、西アフリカ人民組織

(WAPO)とパンアフリカニズムトゥデイ事務局(PAT)が主催しました。2024年11

月19日から21日にかけて、ニアメのマハトマ・ガンジー国際会議センターで、

「反帝国主義の統一、平和、民族間の友情のために」をテーマに開催されました。

私たちは、ここに以下の宣言を發布します。

I. 国際的な文脈

世界は、アメリカ合州国とその NATO 同盟国が率いる帝国主義列強によるの攻撃的行動を特徴とする、第三次世界大戦の瀬戸際にある多次元の危機に直面している。

これらの勢力は、ガザとレバノンでの虐殺と大量虐殺を指揮し、ウクライナから西サハラとスーダンまで戦争を激化させるなどの行動に関与しているが、これらは彼らの衰退を示しています。彼らは東南アジアで複数の挑発行動を扇動し、60 年以上にわたるキューバに対する違法な封鎖を維持し、彼らの世界的な専制政治の一部としてベネズエラ国民に制裁を課しています。

「サヘルの人々との連帯会議」の参加者として、我々は、第三次世界大戦の可能性を助長するものと見なし、これらの行為を強く非難します。われわれは、米国とその NATO 同盟諸国にこれらの行動の責任を負わせ、ガザとレバノンでの残虐行為の即時停止、キューバとベネズエラに対する封鎖の停止、そして人類の平和のための世界中の帝国主義的挑発の停止を要求します。

II. アフリカの状況とサヘル地域への特異な焦点

1. 140 年前の 1884 年 11 月 15 日、ドイツのビスマルク首相が率いるヨーロッパの 14 の植民地大国がベルリンに集まり、アフリカ大陸を分割して自分たちの利

益を得ました。何世紀にもわたって奴隷制を通じて何千万人ものアフリカ人労働者を搾取してきたこれらのヨーロッパ諸国は、アフリカの豊かな天然資源を搾取するために物理的に占領しました。

2. この分割により、フランスとイギリスは西アフリカの大部分を奪いました。フランスはサヘル地域の大部分を支配するようになり、肥沃度が低いと思われていた砂漠地帯を占領し、イギリスはアフリカの肥沃で人口の多い地域を占領しました。

3. 英雄的な解放闘争が行われ、大きな利益が勝ち取られた一方で、1960年代の独立は、特にフランス植民地にとっては真の主権にはつながりませんでした。サヘル諸国同盟（AES）の国々は、通貨や防衛から天然資源に至るまで、主権のあらゆる側面が、恒久的な軍事的プレゼンスによって強制された傀儡政府を通じてフランスによって支配され、「フランスによる囲い込み」に縛られたままでした。継続的な搾取により、いわゆるフランス語圏のアフリカ諸国は、ニジェールを顕著な例として、世界で最も貧しい国の一つにしました。

4. マリ、ブルキナファソ、ニジェールにおける最近のクーデターは、支配者がフランス帝国主義の侵略から自国を守ることを怠り、テロリスト勢力を育成したことに起因しています。これには、これらの旧政府がテロリストと共謀して住民に対する虐殺をおこなったことが含まれています。クーデターは、これらの国々で広がった不満と実質的な変化の要求も反映しています。

III. サヘル諸国同盟(AES)の断固たる人民と指導者への支援

1. 我々は、最近のクーデターから立ち直った政府が、自国の領土及び天然資源に対する政治的及び経済的主権を取り戻すために愛国的な措置をとったことを称賛します。これらの措置には、新植民地主義協定の終了、フランス、アメリカ、その他の外国軍の撤退要求、主権開発のための野心的な計画の実施が含まれます。

2. 我々は、これらの国々がサヘル諸国同盟を結成したことに特に勇気づけられます。この動きは、汎アフリカの指導者の遺産を活性化し、真の独立と汎アフリカの団結に向けた具体的な一歩を表しています。

3. これらの政府は現在、革命的行動を推進し、結集する市民から広範な支持を得ています。この団結は、民主主義と愛国的な理想を達成するために不可欠であり、他のアフリカ諸国にとって野心的な開発モデルです。

結論として、サヘル諸国の完全な解放に向けては、まだ多くの課題が残されていますが、私たちは、これらの政府が国民の声に耳を傾け続けることで、民族の完全解放という目標を達成し、統一された自由なアフリカというより広範な目標に貢献すると期待しています。

われわれは、サヘルの民衆勢力と革命勢力とともに、完全かつ全面的な主権を求める闘争において立ち上がります。サヘル地域における人々の前進を擁護し、こ

の目的のために世界中の国際主義勢力を結集することを決意してニアメを発出します。

愛国心、反帝国主義、汎アフリカ主義万歳!

フランスと連合国は撤退せよ!

2024年11月21日 ニアメにて

参加者一同

【翻訳チェック 田中靖宏】